

第5回 橋本市都市計画審議会専門委員会及び  
橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会 議事録(抜粋)

会議名称	第5回 橋本市都市計画審議会専門委員会及び橋本市都市計画マスタープラン等策定検討委員会	
日時	令和4年2月17日(木) 午後1時30分～	
場所	橋本市保健福祉センター 3階 多目的ホール	
出席者	委員 (敬称略)	<p>○橋本市都市計画審議会専門委員 濱田 學昭 乾 幸八 板橋 真弓 杉村 春美</p> <p>○橋本市都市計画マスタープラン策定検討委員会 濱田 學昭 葛原 芳秀 西山 恵三 堀川 憲一 池田 和夫 大原 康平 向井 景子 房本 恵 栄迫 仁志 武田 昌也</p> <p style="text-align: right;">【出席委員 14名】</p>
公開状況	公開	
傍聴者	なし	
次第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 協議事項 「都市計画マスタープラン」の将来ビジョンの策定について</p> <p>3. 閉 会</p>	
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定委員会主題</li> <li>・都市計画マスタープランの構成骨子案と第5回委員会の論点</li> <li>・土地利用に関する参考資料</li> <li>・都市計画マスタープラン将来ビジョンの策定について考える</li> </ul>	

## ○委員長挨拶

寒い中おあつまりいただきありがとうございます。本日も議論よろしく申し上げます。

## ○協議事項について

都市計画マスタープランを具体的に策定していくにあたり、今後橋本市をどのようなまちにしているのかといったビジョンを固めた上でそれに沿った計画にする必要があることから、将来ビジョンについて議論を行っていただきました。

議論に先立ち、資料をもとに委員長から将来ビジョンの策定の必要性などについてご説明をいただきました。

## 《意見等》

- ・人口減少が既定路線である中で、その減少をとどめたいと考えた時に、住みたい、住み続けたいと思わせるまちとは何なのか。基本的な暮らしやすさはもちろんとして、文化環境にアクセスできるというのが付加価値として重要になるのでは。
- ・これまでの委員会でも出てきているが、橋本市には都市核がない。駅前再開発はいったん頓挫してしまったが、市役所周辺のシビックゾーンも含めた広い範囲ではあるが集中投資を行い駅前を中心に都市核をこのエリアに整備し、ほかの拠点は生活拠点として整えるというのがいいのでは。
- ・まちづくりについて橋本市はこれまで施設単体での行き当たりばったりな計画が多く都市計画として機能していなかった。なので、施設を新しく作ったとしても周辺への波及効果が限定的で新しい需要の掘り起こしなど起きなかった。箱モノは一度作ると簡単には動かしたりなくしたりできるものではないから、将来とどういった影響をもたらしたいのかを考えながら作っていく必要がある。
- ・やはり橋本駅前というのをどうにかしてほしい。駅前は歴史を振り返っても宿場町の中心であり、市民にとって重要な位置を占めている。
- ・創造性という観点から仕事を始める人を応援するまちというのも一つのアイデアでは。かつらぎ町が役場の移転と併せてしっかりした図書館の建設なども考えているとの話も聞いた。であれば、図書館はそちらのを利用するでもいい。代わりに、駅前を情報が集約する場所として整え、託児所なども備えることで、子育てと交通の利便性などを合わせた拠点となりえるのでは。遠隔学習の環境も整ってきているので、学びの場としての役割も果たすことができると思う。
- ・駅前に投資をするというのは、橋本市にとってかなりのパワーが必要。なかなか都市マスでやろうといったから出来る、というわけにはいかない。もしやるとしてもまとまった住宅地の整備が必要。人が集まらないと交流は生まれず、質のいいサービスの提供が担保できない。人の集積を誘導できる仕組みを作ることに橋本市がどこまで本気で投資できるか、また民間の投資を呼び込めるかにもよると思う。
- ・現在考えられている市役所の建て替えを含めてそこに持っていけばよいのではないかと考えている。庁舎移転に合わせて周辺の整備に予算を投入する。以前の再開発事業の関係で市有地も

増えているはずなので、ある程度は市の自由になる土地もあるのでそこも利用できるのでは。

・このまえ初めて海南市の図書館を訪れたのだが、図書館としての設備もちろんだが、それに付随する施設がとても充実していた。本だけではなく、子供も遊べるし、様々な世代の人が集まれる場所として整備されている。そういうのが橋本市にもあればと思う。

・これまで橋本でもいろいろな計画が話し合われてきた。しかし、大きな計画になればなるほど計画だけで実行に移ることが少なかった。やはり予算の関係で折り合いがつかないことが多い。我々がこうやって意見を出していくのももちろん大事だが、実行には予算の裏付けが必要。そして、規模の大きい計画に対する予算を確保するには政治力もまた重要になってくると思う。

・橋本というところはどうしても計画などを作っても、個人個人が好きなことを言って市が一丸となって取り組もうという機運になかなかならない気がする。

・今までもいろんな場でいろんな意見や計画が出てきたが立ち消えになったものもたくさんある。市民対しての働きかけなども併せて行っていくことが、いざ実行という面ではとても大事になると思う。

・どこで何をするか、までマスタープランで踏み込むことはできないが、どういったものを核にしてどういった場所にしたいかということは議論が必要。そして、結論を出すにはじっくり費用対効果などを踏まえた調査がいる。

・核となる施設という話であれば図書館もそうだが、防災に関して学べる施設というのも整備してほしい。

・そういった施設もすべて一か所に集めたほうがいいと思う。橋本は横に広く確保できる場所が少ないから、どうしても上に積んでいく形になると思う。市役所の建て替えに伴ってそういった施設の集約を考えていかなければいけない。

・地域の活性化という点で、現在橋本市は市全域の各地区で協議体というものを定めて、交流や見守りといった活動をはじめ様々に動こうとしている。高齢者への対策という点ではこういったものも大事になってくると思う。

・橋本市を「便利な田舎」という表現でマイナスな方向で捉えられることもあるが、いい意味でこれは橋本市の将来ビジョンの一つの一つではないかと思う。橋本市は市街地で住んでいる人ばかりではなく、農山地などの自然環境の中で住み続けてきた人も多い。そういった人たちもいる中で、橋本市の中心はどこかということ考えたうえでずっと議論に上がっている駅前であるとか図書館などの集いの場を作っていく必要はあると思う。

・資料にもあるが、旧の橋本市と高野口町とで用途地域の設定など都市計画の設定レベルに違いがある。そういったことへの方針はどうするのかということは別で考えていかなければならないと思う。都市核などの話をする中で、現在線引きされていない都市計画区域であるとか、用途指定が全くない高野口町であるとか、そういったことも考える材料になりえるのでは。立地適正化計画を今後定めて、都市核や施設を誘導していくなどの対応していくというのも一つ。

今後について

計画策定に向けて、夏ころに向けて計画の素案を作っていく必要がある。その中で、委員会を何度か開きつつ、調整していきたい。